

ECONOMY TOPICS

経済トピックス

2012.12.7

No.418



平成 24 年冬のボーナス調査

レポートの概要

平成 24 年冬のボーナス受給見込額は、平均で 37 万 6 千円となり、昨年冬の受給実績に比べ 5 千円下回った。一方、ボーナス希望額は平均で 51 万 4 千円となった。なお、今冬のボーナスの伸び(見込み)は「良くなる」とする割合が増加、「悪くなる」が減少したことから期待指数は 2.7 ポイント上昇した。

ボーナスの使途計画は、「消費」が 41.6%、「貯蓄」が 43.3%、「返済」が 15.1%の割合となり、前年同期に比べ「消費」、「貯蓄」が上昇し、「返済」割合は低下した。「貯蓄」の目的については、「特に目的はない、貯蓄していれば安心だから」の割合が最も高く、「教育」、「老後の備え」がこれに続き、昨年冬の調査と 2 位、3 位が入れ替わった。

最近の暮らし向き調査では、24 年夏に比べて暮らし向き指数が 0.7 ポイント低下した。「良くなった」とする割合が 0.4 ポイント増加したものの、「悪くなった」とする割合が 1.8 ポイント増加した。前回調査に続き 40.0 を超えたものの、「良くなった」とする割合は依然として 5%未滿と低い水準にあり、全体としては暮らし向きの厳しさが続いている様子がうかがわれた。今後の暮らし向きについては「悪くなる」とする割合が増加し、厳しさが増すものと予想される。

県内給与所得者の小遣いの平均額は、毎月が約 3 万 2,900 円、ボーナス時は約 5 万 6,200 円となった。最も小遣いが多かったのは毎月、ボーナス時とも 20 代男性であった。一方、最も少なかったのは毎月が 40 代女性、ボーナス時は 50 代女性であった。

この冬の御歳暮は、贈る「予定あり」が全体の 32.9%となった。「予定あり」の割合は、20 代が約 1 割にとどまったが、年代が進むにつれて割合が大幅に増加し、50 代では 63.7%となった。「予定あり」とした回答者の平均贈答先数は 4.6 先、1 先当たりの平均金額は 4,451 円、御歳暮予算合計額は約 1 万 9,391 円となり、昨年調査に比べて贈答先数、平均金額、予算額とも減少した。

1. 平成24年冬のボーナス調査

(1) ボーナス受給見込額

平均37万6千円、前年を5千円下回る

県内給与所得者が予想する今冬のボーナス受給見込額は、平均で37万6千円となり、回答者の昨年冬の受給実績(平均38万1千円)に比べ1.3%、5千円下回った。これを年代別・男女別にみると、最も見込額が大きかったのは50代(50代以上を含む、以下同じ)男性の58万2千円、次いで50代女性と40代男性の47万2千円、30代男性の40万4千円などの順となった。また、20代(20代以下を含む、以下同じ)女性、30代女性はともに30万円を下回った。

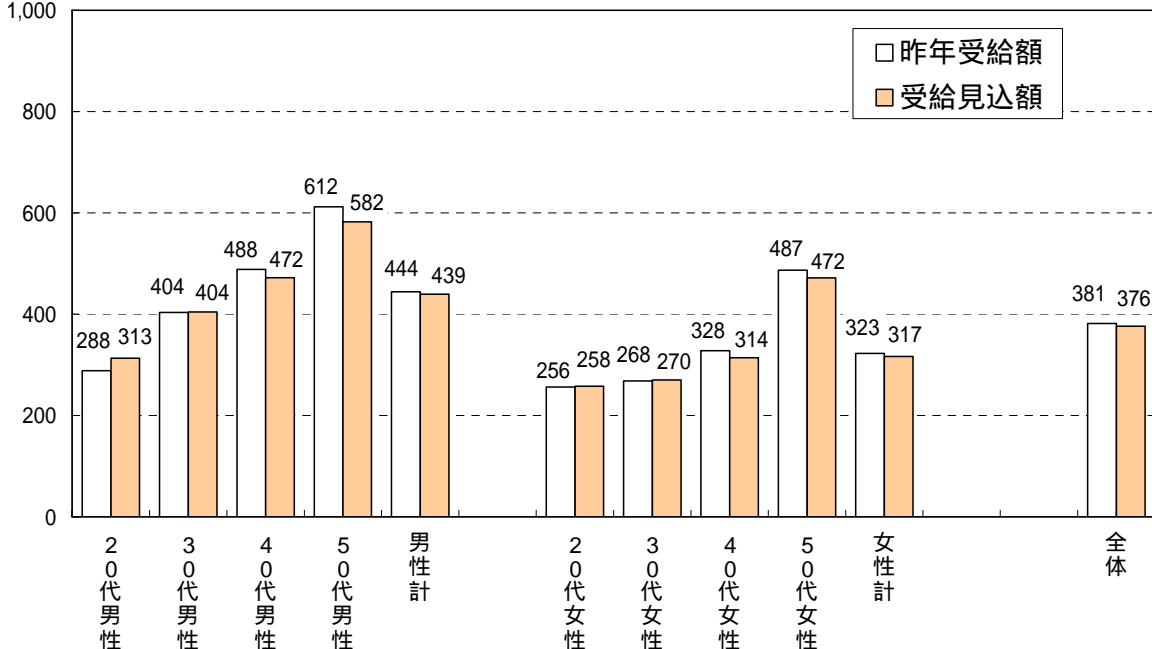
男女別の平均見込額を比較すると、男性が43万9千円、女性は31万7千円となり、男性が女性より12万2千円多くなっている。

る。

なお、今冬の見込額と昨年冬の受給実績額との開きをみると、男女とも40代以上は昨年冬の受給額を下回るとしており、差額は50代男性が3万円、40代男性が1万6千円、50代女性が1万5千円、40代女性が1万4千円となった。一方、30代以下では20代男性が受給額を2万5千円上回ったほか、20代女性、30代女性も昨年冬を幾分上回るとしている。

(以上、1図参照)

(1図) ボーナスの受給見込額(年代別)



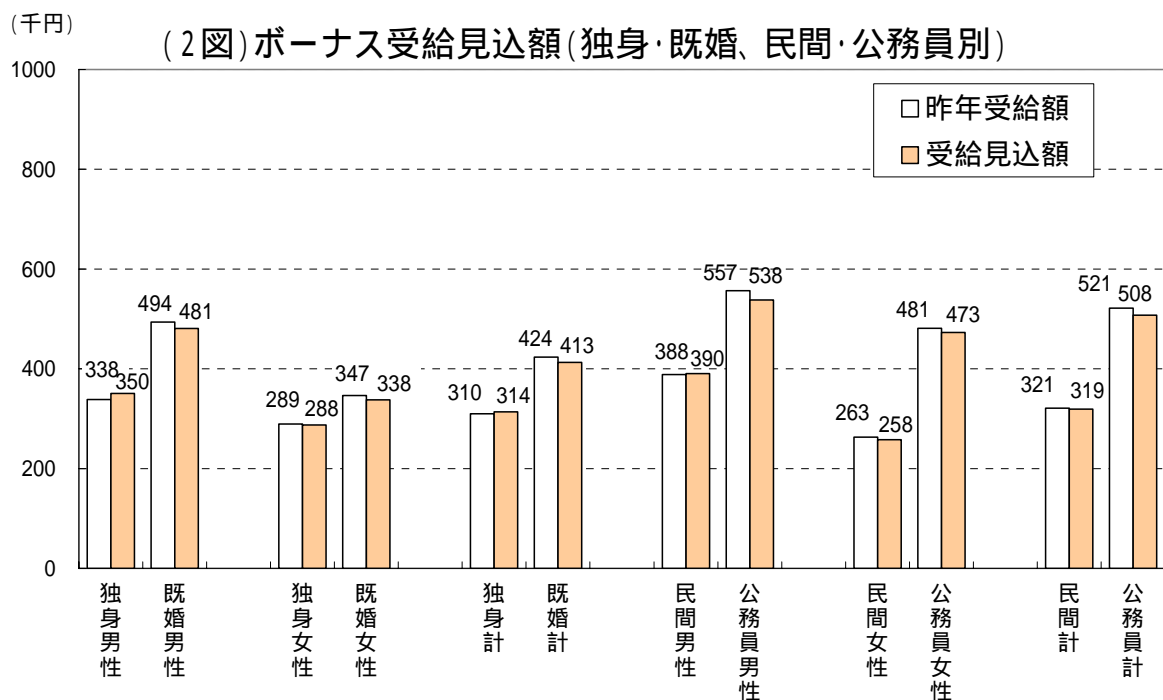
次に、独身・既婚別の受給見込額をみると、独身者が31万4千円、既婚者が41万3千円となった。昨年冬の受給実績に比べ独身者が4千円上回る一方、既婚者は1万1千円下回ると見込んでいる。

また、民間・公務員別では、民間が31万9千円、公務員が50万8千円の見込みとなった。昨年冬の受給実績額と比べると、民間が2千円、公務員が1万3千円、それぞれ下回るとしている。男性は民間が2千円上回り、公務員は1万9千円下回るとし

ている。一方、女性は民間が5千円、公務員が8千円、それぞれ下回るとしている。

今冬のボーナス受給見込み額は昨年冬の受給実績額に比べ、全体的には幾分下回る水準となった。各年代、属性別にみても、50代男性の3万円減、20代男性の2万5千円増の開きがあったものの、その他は2万円以下にとどまり、全体に大きな開きはみられなかった。

(以上、2図参照)



(2) ボーナスの希望額

ボーナス希望額は平均51万4千円

今冬のボーナス希望額は平均で51万4千円となり、平均受給見込額37万6千円との間に13万8千円の乖離を生じた。男女別の平均希望額を比較すると、男性が60万5千円、女性は42万8千円となり、男性が女性より17万7千円多くなっている。

年代別・男女別の平均希望額をみると、50代男性が79万5千円でトップとなり、以

下、40代男性の67万2千円、50代女性の60万2千円、30代男性の56万1千円などと続いた。

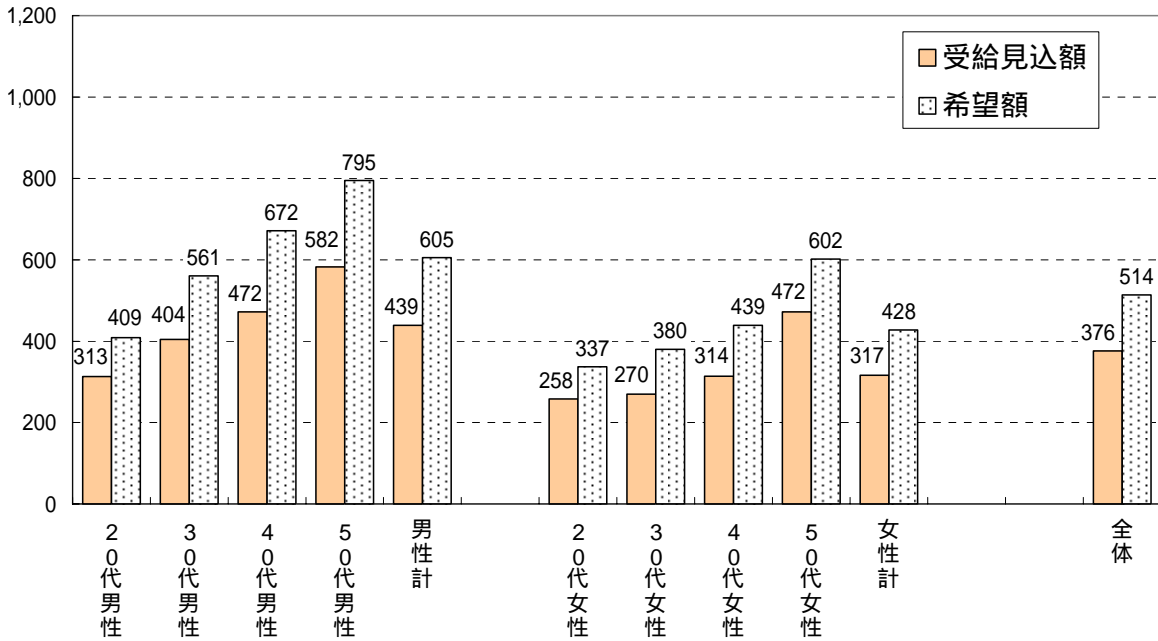
受給見込額と希望額との乖離幅を年代別にみると、50代男性が21万3千円で最も大きく、次いで40代男性の20万円、30代男性の15万7千円、50代女性の13万円などと続いた。乖離幅が最も小さかった

のは 20 代女性の 7 万 9 千円であった。各年代とも男性が女性に比べ、乖離幅が大きかった。なお、独身・既婚別にみると、既婚者の乖離幅が独身者よりも大きかった。民

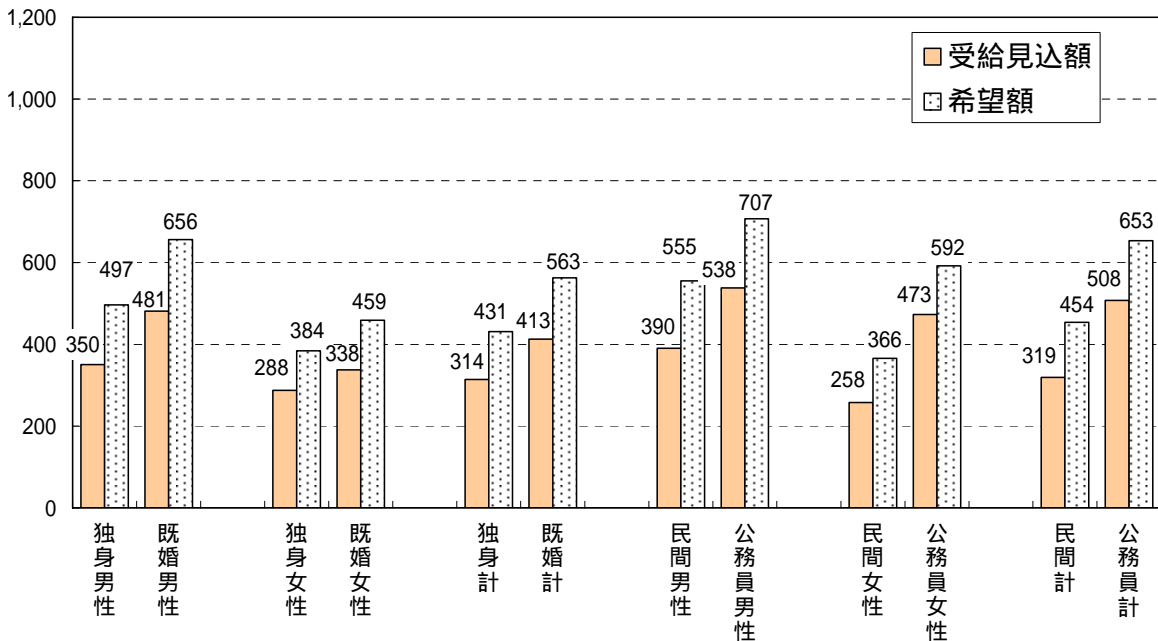
間・公務員別でみると、公務員の乖離幅が民間より幾分大きかった。

(以上、3、4 図参照)

(千円) (3 図) ボーナス希望額(年代別)



(千円) (4 図) ボーナス希望額(独身・既婚別、民間・公務員別)



(3) ボーナスの伸びについて
期待指数 2.7 ポイント上昇

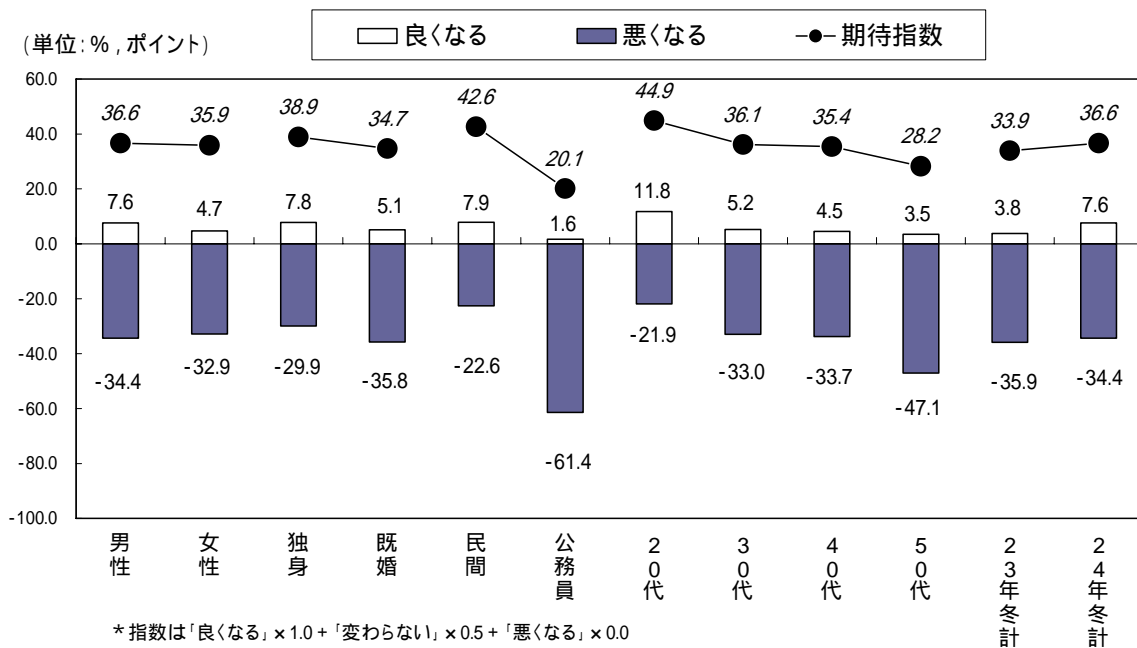
今冬のボーナスの伸びは前年同期に比べてどうなるかについて、「良くなる」、「悪くなる」、「変わらない」の三つの選択肢で回答してもらった。ボーナスの伸びが「良くなる」との回答は、23年冬に比べ3.8ポイント増加の7.6%、一方、「悪くなる」は同1.5ポイント減少の34.4%となり、「変わらない」は同2.3ポイント減少の58.0%となった。この結果、ボーナスの伸びに対する期待指数(5図、注記参照)は36.6となり、昨年冬に比べて2.7ポイント上昇した。

ポイント低下したものの、民間は「良くなる」とする割合が7.9%と昨年冬(4.2%)に比べ3.7ポイント増加、「悪くなる」は22.6%(同30.7%)と8.1ポイント減少し、期待指数が42.6と昨年冬(36.7)に比べ5.9ポイント上昇した。また、「良くなる」とする割合は20代が11.8%と2ケタとなったほか、公務員を除く年代・属性で昨年冬に比べ増加がみられ、厳しい状況が続く中、全体としては幾分改善傾向がうかがわれた。

(以上、5図参照)

ボーナスの伸びに対しては、公務員の期待指数が20.1と昨年冬(30.0)に比べ9.9

(5図) ボーナスの伸び



(4) ボーナスの使途計画

「消費」、「貯蓄」割合が上昇、「返済」割合は低下

この冬のボーナスの使途計画は、「消費」が41.6%、「貯蓄」が43.3%、「返済」が15.1%の割合となった。前年同期と比べると、

「消費」割合が0.4ポイント、「貯蓄」割合が0.3ポイント、それぞれ上昇した。一方、「返済」割合は0.7ポイント低下した。

属性別にみると、男女別では、男性は「返済」割合、女性は「消費」、「貯蓄」割合が高かった。独身・既婚別では、独身者は「消費」、「貯蓄」割合、既婚者は「返済」割

合が高かった。民間・公務員別では、民間は「貯蓄」割合が高く、公務員は「返済」割合が高かった。

(以上、1表参照)

(1表) ボーナスの使途計画

(単位: %)

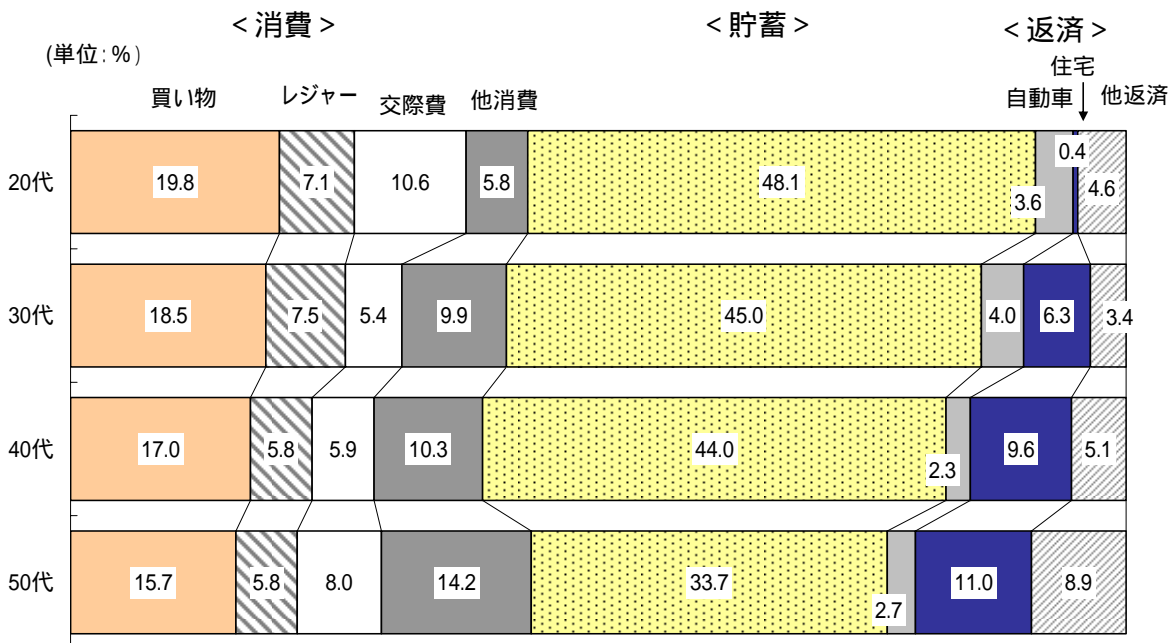
	消費割合					貯蓄割合	返済割合			
	買い物	レジャー	交際費	その他	自動車		住宅	その他		
男性	39.7	16.2	6.7	6.5	10.3	41.5	18.8	4.0	9.6	5.2
女性	43.4	19.5	6.6	7.9	9.4	45.0	11.6	2.3	4.1	5.2
独身者	43.1	18.0	7.5	9.3	8.3	45.9	11.0	3.5	2.8	4.7
既婚者	40.6	17.7	6.1	5.9	10.9	41.7	17.6	3.0	9.2	5.5
民間	41.8	18.9	6.2	7.3	9.4	45.1	13.1	3.0	5.6	4.5
公務員	40.9	15.5	7.7	6.9	10.8	39.2	19.9	3.5	9.7	6.7
24年冬計	41.6	17.9	6.6	7.2	9.9	43.3	15.1	3.2	6.8	5.1
23年冬計	41.2	18.9	6.6	7.0	8.7	43.0	15.8	4.3	7.2	4.4
22年冬計	42.7	21.0	7.1	6.7	7.9	41.8	15.5	4.7	7.1	3.7

年代別にみると、「消費」割合は50代が43.7%、20代が43.3%と高い割合となった。うち、「買い物」の割合は20代が19.8%と最も高かった。「貯蓄」割合は20代が48.1%と最も高く、年齢が高くなるにつれて割合が

低下し、50代は33.7%となった。「返済」割合は50代が22.6%と最も高く、住宅ローンの割合も50代が11.0%でトップとなった。

(以上、6図参照)

(6図) 年代別ボーナスの使途計画



(5) 貯蓄の目的

「貯蓄していれば安心だから」がトップ、「教育」、「老後の備え」が続く

貯蓄の目的(複数回答)は、「特に目的はない、貯蓄していれば安心だから」の割合が46.6%で最も高く、以下「教育」が29.9%、「老後の備え」が27.5%、などと続いた。

前年同期との比較では「教育」の割合が3.8ポイント上昇し、2位と3位が入れ替わった。また、4位の「旅行」は21.4%となり、順位は同じであったものの、1.7ポイント上昇した。

男女別に見ると、男女とも上位3位は全体と同じ順位となったが、女性は「安心だから」

ら、「老後の備え」の割合が男性よりも高かった。そのほか、男性は「住宅」が4.2ポイント、「耐久消費財」が4.7ポイント女性よりも高く、女性は「旅行」が男性よりも11.7ポイント高かった。独身・既婚別では、独身者はトップが「安心だから」で57.4%と既婚者に比べ17.7ポイント高く、次いで「旅行」、「老後の備え」と続いた。一方、既婚者は「教育」が45.2%とトップとなり、「安心だから」、「老後の備え」の順となった。

(以上、2表参照)

(2表)貯蓄の目的

(単位:%)

	男	性女	性女	独身	既婚	24年冬計	23年冬計	22年冬計
住 宅	14.2	10.0	6.8	15.3	12.0	11.8	15.6	
教 育	(2) 30.4	(2) 29.3	5.7	(1) 45.2	(2) 29.9	(3) 26.1	(2) 30.9	
結 婚	6.9	9.7	20.8	0.5	8.3	8.5	9.2	
旅 行	15.4	27.1	(2) 30.2	15.8	21.4	19.7	23.6	
耐久性消費財	13.0	8.3	8.7	11.7	10.5	10.6	11.6	
病気の備え	9.9	11.1	10.9	10.3	10.5	9.4	16.3	
老後の備え	(3) 26.5	(3) 28.5	(3) 22.6	(3) 30.6	(3) 27.5	(2) 27.7	(3) 29.5	
安心だから	(1) 45.5	(1) 47.6	(1) 57.4	(2) 39.7	(1) 46.6	(1) 46.9	(1) 48.4	

2. 最近の暮らし向き調査

暮らし向き指数、幾分低下、「良くなった」とする割合は4.7%にとどまる

まず、「昨年の今頃に比べて最近の暮らし向きはいかがですか」との問いに対しては、「良くなった」との回答は24年夏に比べ0.4ポイント増加の4.7%、一方、「悪くなった」は1.8ポイント増加の22.3%、「変わらない」は2.2ポイント減少の73.0%となった。この結果、「現在の暮らし向き指数」(3表、注記参照)は41.2と、24年夏に比べ0.7ポイント低下した。暮らし向き指数は24年夏に続

き40.0を超えたものの、「良くなった」とする割合は依然として5%未満と低い水準にあり、全体としては暮らし向きの厳しさが続いている様子がうかがわれた。

年代別、属性別に見ると、「良くなった」とする割合は20代で12.3%となったものの、40代は2.0%、50代も2.2%と高齢層では低い割合にとどまった。一方、「悪くなった」とする割合は、20代が9.3%と1ケタ台と

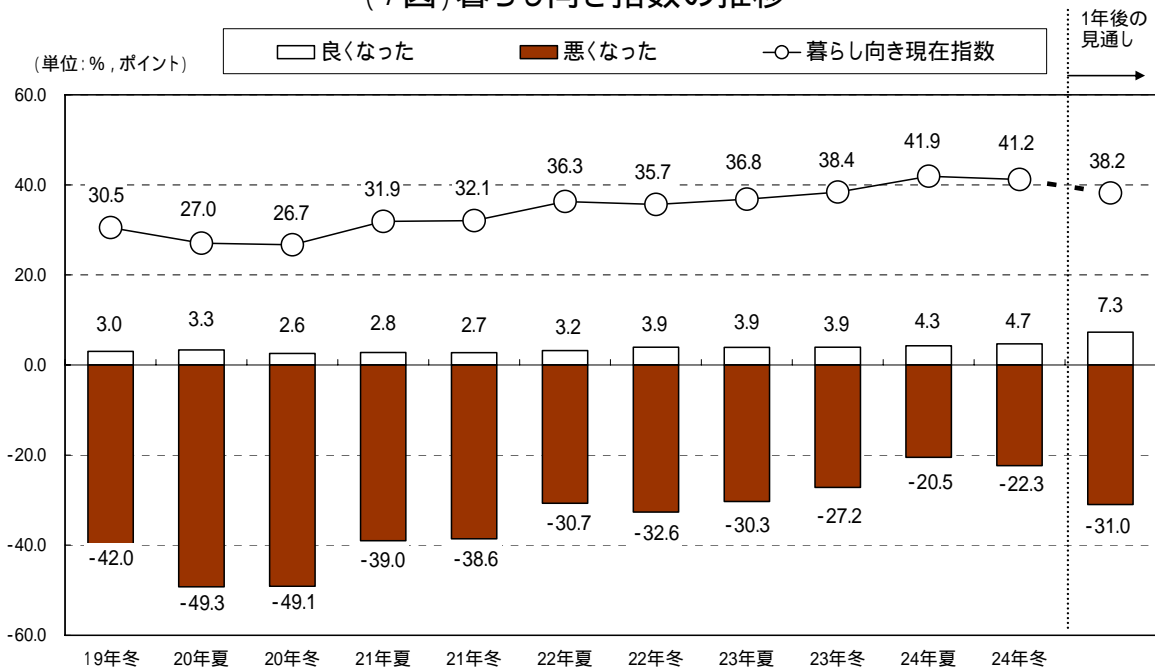
なったものの、年代が進むにつれて高くなり、50代では36.8%となった。また、「変わらない」とする割合は50代、既婚者、公務員以外の年代・属性で70%を超えた。

次に「1年後の暮らし向きはどうなると考えますか」との問いに対しては、「良くなる」の割合は2.6ポイント増加の7.3%と幾分上

昇するものの、「悪くなる」が8.7ポイント増加の31.0%となり、「変わらない」が61.7%となった。この結果、「今後の暮らし向き指数」は「現在の暮らし向き指数」を3.0ポイント下回る38.2となり、先行きの暮らし向きについては厳しさが増すものと予想される。

(以上、7図、3表参照)

(7図) 暮らし向き指数の推移



(3表) 現在の暮らし向きについての見方(属性)

(単位: %, ポイント)

	現在 → 今後		現在 → 今後		現在 → 今後		現在 → 今後	
	良くなった	良くなる	変わらない	変わらない	悪くなった	悪くなる	指数	指数
男性	5.2	8.6	72.1	60.3	22.7	31.1	41.2	38.8
女性	4.3	6.1	73.7	63.0	22.0	30.9	41.2	37.6
独身	7.2	10.4	78.0	67.7	14.8	21.9	46.2	44.2
既婚	3.2	5.4	69.9	58.1	26.9	36.5	38.1	34.5
民間	5.3	7.3	75.0	64.9	19.7	27.8	42.8	39.7
公務員	3.1	7.4	67.7	53.5	29.1	39.1	37.0	34.2
20代	12.3	16.5	78.4	67.5	9.3	16.0	51.5	50.2
30代	3.2	8.3	77.3	64.7	19.4	27.0	41.9	40.6
40代	2.0	2.8	72.4	63.7	25.6	33.5	38.2	34.7
50代	2.2	1.6	61.0	47.8	36.8	50.5	32.7	25.5
全体	4.7	7.3	73.0	61.7	22.3	31.0	41.2	38.2

注) 現在指数 = 「良くなった」×1.0 + 「変わらない」×0.5 + 「悪くなった」×0.0

今後指数 = 「良くなる」×1.0 + 「変わらない」×0.5 + 「悪くなる」×0.0

3. 県内給与所得者の小遣いについて

毎月、ボーナス時とも 20 代男性がトップ

ボーナス調査に併せて、給与所得者の小遣いについても調査した。全体では毎月の平均小遣い額は約 3 万 2,900 円、ボーナス時は約 5 万 6,200 円となった。これを男女別にみると、男性は毎月の平均額が約 3 万 6,700 円、ボーナス時は約 5 万 9,100 円、女性は毎月が約 2 万 9,400 円、ボーナス時が約 5 万 3,500 円となった。

次に年代別に小遣いの額を見ると、毎月の小遣いがかつとも多いのは 20 代の 4 万 1,000 円、逆に最も少ないのは 40 代の約 2 万 9,100 円、ボーナス時では最も多いのが 20 代の約 7 万 5,300 円、最も少ないのは

40 代の約 4 万 5,500 円となった。

男女別、年代別にみると、全体に男性の小遣いが女性を上回っているが、ボーナス時の 30 代では女性が上回った。最も小遣いが多かったのは、毎月、ボーナス時とも 20 代男性であった。一方、最も少なかったのは毎月が 40 代女性、ボーナス時は 50 代女性であった。

(以上、4 表参照)

(4表)小遣いの額

(単位:円)

	男性		女性		総計	
	毎月	ボーナス時	毎月	ボーナス時	毎月	ボーナス時
20 代	45,000	85,635	37,687	67,113	41,000	75,273
30 代	32,219	53,587	29,581	55,100	30,895	54,375
40 代	33,858	47,397	25,111	43,916	29,108	45,545
50 代	39,103	54,297	25,267	43,667	32,698	49,908
年代計	36,737	59,110	29,385	53,536	32,946	56,248

4. この冬の御歳暮事情について

予定あり 32.9%、贈答先数 4.6 先、平均金額 4,451 円

この冬、御歳暮を贈る予定については、全体の 32.9%が「予定あり」としている。

属性別にみると、独身・既婚別では、既婚者の 44.9%が「予定あり」としているのに対して、独身者は 13.0%にとどまった。また、「予定あり」を年代別にみると、20 代では約 1 割にとどまったが、年代が進むにつれて割合が大幅に増加し、50 代では 63.7%となった。

次に「予定あり」の回答者に贈答先数と 1 先当たりの平均金額を尋ねたところ、平均

先数は 4.6 先、1 先当たりの平均金額は 4,451 円となり、御歳暮予算合計額は 1 万 9,391 円となった。昨年冬の調査と比べると、贈答先数(昨年冬 4.9 先)が 0.3 先減少、平均金額(同 4,490 円)が 39 円減少、予算額(同 2 万 411 円)が 1,020 円減少となった。

属性別にみると、独身・既婚別では、先数は既婚者が上回ったものの、平均金額は独身者が上回った。また、年代別でみると、先数、平均金額、予算額は 50 代がそれぞれ

れ最も多かった。一方、小遣い額がトップだ 額となった。

った 20 代はそれぞれ最も少ない件数、金

(以上、5 表、6 表参照)

(5表)御歳暮の予定

(単位: %)

	予定あり	予定なし
独身	13.0	87.0
既婚	44.9	55.1
20代	11.2	88.8
30代	23.1	76.9
40代	39.2	60.8
50代	63.7	36.3
全体	32.9	67.1

(6表)御歳暮の先数と予算

(単位: 先、円)

	贈答先数	平均金額	御歳暮予算
独身	3.6	4,738	15,476
既婚	4.7	4,404	20,035
20代	3.5	3,909	13,364
30代	3.5	4,516	14,097
40代	4.2	4,402	17,216
50代	5.7	4,560	25,181
全体	4.6	4,451	19,391

(注)回答項目をそれぞれ単純平均

以上

調査要領

調査対象者

県内在住の男女給与所得者

調査時期

平成 24 年 11 月中旬

配布・回収枚数

配布枚数 1,000 枚

回収枚数 917 枚 (回収率 91.7%)

回答者内訳

(単位: 人、歳)

属性	男性	女性	合計
*20代以下	90 (25.9)	116 (25.5)	206 (25.7)
30代	137 (35.2)	141 (34.8)	278 (35.0)
40代	111 (43.9)	140 (43.3)	251 (43.6)
*50代以上	90 (55.1)	92 (54.2)	182 (54.6)
独身	136 (33.6)	211 (33.1)	347 (33.3)
既婚	292 (42.5)	278 (43.0)	570 (42.7)
民間企業	292 (39.0)	369 (38.6)	661 (38.8)
公務員	136 (41.2)	120 (38.9)	256 (40.1)
合計	428 (39.7)	489 (38.7)	917 (39.2)

注:()内は平均年齢

*本文、図表ではそれぞれ20代、50代と表記

【 本件に関する照会先 】

一般財団法人 青森地域社会研究所

担当 産業調査部長 野里和廣

TEL 017-777-1511